



発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内(〒100-0013)
全国税労働組合
発行人 山本 浩二
電話 (03) 3581-3678
FAX (03) 3507-0886
振替口座 00140-2-68514

“税務の職場”
何でも110番
zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも110番」を常時設置しています(電話とFAXは上記の番号までどうぞ)。

◆全国税ホームページ◆
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

新徴収システム

まともなシステムを作ってからやり直せ

重い、エラー・不具合だらけのシステム

「1月導入はせず、せめて試行してから」と求めてきた新徴収システムが1月6日、全国一斉に導入されました。全国各地で処理が進まず、債権管理が反映されないなどの重大なエラーが判明しており、税務行政の信頼を根底から揺るがす事態も想定されます。

動かない!

初期設定の「決裁ルート」が処理されない。殆どのメニューで最初に通る「滞納者一覧」がまともにも動かない。朝一番に入力した差押えが処理されたのは17時。統括官メニューの「管理者トピック」や決裁入力がほとんど動かない…。その他、多くのメニューで長時間待たされ、挙句「タイムオーバー」の表示で何度もやり直す。

エラーだらけ!

これが、導入された「新徴収システム」の実態です。

「重大なエラー」「想定外のエラー」「管理者に問い合わせを」他の人が情報を更新したので、操作

国税債権の確保 よりも システム導入を優先させる

庁

マスキングについて どう思いますか?

当然である	3.1%
やむを得ない	22.6%
やめるべきだ	33.2%
負担が増え反対	33.9%

北陸地連

北陸地連が毎年行っている「仕事と暮らしのアンケート」今年度は、昨年秋に取り組みました。

マスキングに職場2/3が反対

2011年秋仕事と暮らしのアンケートより

アンケートでは、「持出し文書のマスキングについてどう思いますか」の設問が盛り込まれました。この設問に対し、「当然である」が3.1%、

仕事面で不安集中

2011秋職能別アンケートより

東海地連が毎年秋に行っている「職能別アンケート」。

東海地連

管運

「ケート」。昨年10月に、総務、管運、徴収、酒担、筆を集約しました。法人、個人・資産で取り

長官の責任重大

システムの遅さにとどまらぬ深刻なエラー

再三の全国税の指摘に対し、これまでの庁当局の姿勢は、新徴収システムの1月導入「ありき」で強行するものでした。しかも、12月3日には長官自らが「効果がある」とまで言っていました。職場の混乱、職員の負担、

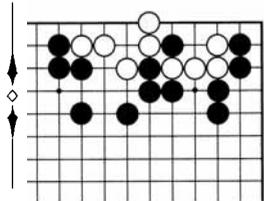
本日、「非常勤職員の雇い止めと労働時間の不利益変更」を行わないことを求める緊急要求書」を提出します

○課税の下請け(雑用)でないことを明確に。○基幹職員を早くから育成を。○教えている時間がない。○相談を所掌するなら、審理担当と総務課経験者を配置。○人員は最低でも現状維持を。○もう一度考えて課税でできる仕事は課税に戻す。管運はリスクが多すぎる。○一元化前の状態に戻すべき。○もともと課税部門が面倒くさいと思っていた仕事を全て管運に押し付けた状態はよくない。

「窓口の研修で「不十分」が58.8%、「事務処理に関する研修」で「不十分」が59.9%、「法令研修」で「不十分」が67.6%となっている。事実、「今後、管理部門はどのようなべきか」との記述式の設問には、右の抜粋をはじめ、多くの声が寄せられています。

映しないエラーは深刻です。京局・大阪局には「KSK帳票を使い、それ以外の局には「KSK帳票を早く理解した模様です。庁当局は1月16日、東

詰碁
(出題) 九段 石樽郁郎
黒先
「ヒント」左側から工作して、最後は右側の眼形を奪います。
(8分で二、三段以上)



2011年を表す漢字に「絆」が選ばれた。東日本大震災から立ち直るためには被災地はもとより人と人のつながり「絆」こそが大切との思いがにじむ。一方、遅々と進まぬ復興・原発事故の収束、消費税増税、県民無視の沖縄米軍普天間基地移設問題など国民の批判にさらされる野田民主党。沈む船から逃げる鼠のように民主党を飛び出た離党組が、さっそく拝借。しかし、被災地はもとより、全国から「復興のシンボルである言葉を汚すな」と批判された。今年を表す漢字は何になるのか。本紙には「変革」の文字が踊る。メディアでは「閉塞感」の言葉も多い。閉塞を感じて握るのではなく、その実態に迫ってこそ変革は生まれる。

日本再生への税財政政策を検証する

— 国民本位の税財政・税務行政をめざして —

第51回税研全国集會を開催

庶民負担押し付け「変化ない」

全国各地から243名が参加

2012年1月7日～8日



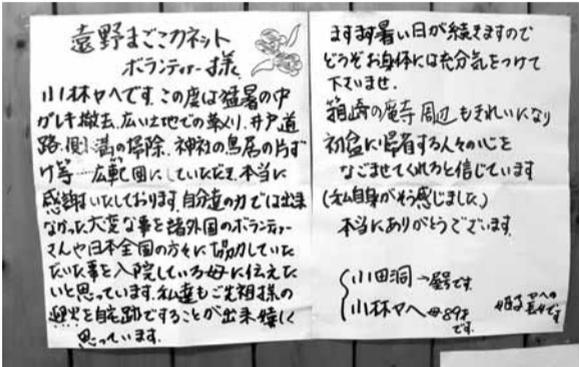
「全国税」の組合旗をバックにした全体会場

第51回税研全国集會は「日本再生への税財政政策を検証する—国民本位の税財政・税務行政をめざして—」を中心テーマに、大阪府池田市で1月7日から8日の2日間、全国各地から243名の参加で開催しました。

東日本大震災・私のボランティア日記

近畿地連・南大阪支部 松本 修さんに聞く (最終回)

ボランティア症候群って? 「戻りたくない病」です



ボランティア体験は、生きざまを高める

世界の若者が「どう生きるか考えてみよう」と模索を始めています。インタビュー最後の言葉「生きざまを高める」には実感がこもっています。

Q: ボランティア症候群にかかったと聞いていますが?

A: そうですね、「戻りたくない病」です。現地にとどまり達成感を味わうまでボランティアを続けたかった。

例えば、20名ばかりで宅地のガレキを搬出したのですが、とても一日では終わらない。一軒で四・五日かかるんじゃないかと思いました。土砂の中には生活用品の一部が混在し、丁寧に振り分けそれを本人の手に戻そうと必死にやりましたよ。私の思いは、どの家も流れ失っていると思われ位牌を探したかった。たった五日間ではとても叶わない話でしたが、被災者のお手伝いをしたという「自己納得」でボランティア症候群から解放されました。

再度チャンスがあれば長期滞在し、もっと地元の方々といろんな話したいと思います。

Q: ボランティアの今後については?

A: 「震災を風化させてはならない」が、私たちボランティア体験者の務めです。大企業は「研修」と称して団体で来ていましたし、大学生はボランティア実績を就職活動に有利に使うなど様々な動機がありました。ここでの体験を考えれば人生プラスになることは間違いないので、ひとりでも参加して欲しいですね。人それぞれ生き方は有るけれど体験はその人の生き方を高めると思います。

(国家公務員は、年間七日間の特別休暇があります)

Q: いろいろありがとうございました。

集會の冒頭、大野税研推進委員長は、最近の社会保障と税の一体改革問題、政府の予算案、税制



基調報告をおこなう木村和由税研推進事務局長

「新たな広域自治体構想を見出し、どのように儲けようとしているのかを、パワーポイントを使い、鋭く分析しました。また、集會参加者が学習を強化して政治的成熟を図り、従来の「紙ベース」組織的発信などの手法



近畿地連・櫻山執行委員

の改定等の動向を踏まえ、「税財政は政治の経済的側面である」とあいさつ。続いて基調報告に立った木村税研推進事務局長は、政府が社会保障・税一体改革や消費税増税、納税者権利憲章の削除など、「財政危機でありながら、庶民に負担

を押し付けてきた方向性に「変化はない」と指摘し、税財政や税務行政の特徴点を報告しました。集會2日目は、税制一般、暮らして税制、税務行政の分科会が行われ、それぞれのテーマに沿って、納税者権利憲章や消

費税増税、共通番号制などでの評価等について、議論が交わされました。これを受けた全体集會では、納税者権利憲章では政府の取扱いに変化があったものの、世の中は大きく変化していることを確認しました。

様々な立場の参加者がそれぞれの運動を展開し、新たな手法を含めた情報発信を重ねることで前進できるとの確信が共有されました。

「財界の新たな攻撃を分析」

とどまらず、個人としてもソーシャル・ネット・サービスやブログを活用した情報発信をすること

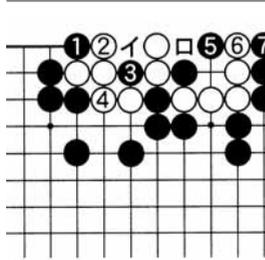
を提言しました。近畿地連・櫻山茂執行委員が行った特別報告では、消費税の諸問題について、仕入れ税額控除に関する現場の実態や共通番号制への職員の雰囲気

九後国公労連書記次長

記載例の納期等区分に誤りがある。③何の指示もなく混乱

送付中止で苦情が殺到【近畿地連】

◆訂正◆
12月20日付本紙第1961号2面文中において、「大阪・金沢・関信で4日間の相談センターを開設する」と記載した記事を、「また、電話相談では、仙台局管内署で計16日間、茨城県・栃木県下署では計4日間の閉庁日対応をする」に訂正します。



詰碁
【解答】黒1、3を決めてから5と7の2手。白6に黒7で白死です。黒1で3は白1黒1白4で失敗。黒3ですぐに5は白6黒7白口で白死です。

冗談wa寄席
【関信・埼玉支部】
庁間違い編
①寄付金控除の間違い(H Pより)
特別控除(税額控除)額の計算明細書について、これらの特別控除の対象となる寄附金の他に寄附金控除の適用を受ける「震災関連寄附金」がある場合、特別控除額が少なく(所得税額が多く)計算される(最高800円)がありました。



結局、苦情等の処理は職員が担当することになるのは目に見えています。今年の確申期は「不安がいっぱい」というのが現場職員の偽らざる心境です。